



つばめ通信

第011号

平成25年5月1日

特定非営利活動法人

NPO 成年後見湘南

平塚市代官町16-37

平塚チェリーマンション102号

発行責任者：成瀬 富子

長い間お世話になりました！

もう10年になります。平成15年4月22日、特定非営利活動法人NPO成年後見湘南の設立総会開催と同時に、当法人の代表理事に選出されて以後今日に至るまで10年、優秀なスタッフ、顧問、会員、友人等に支えられ、まがりなりにも当会をスタートラインに位置づけることが出来たと思います。

平成24年8月頃より、突然腕の力、脚の力が抜け立ち上がるのに苦労するようになり、また、10分ほど歩くと間欠爬行の症状が出て、腰が痛くなり歩行困難と成る状況が続いて居ます。

「知的障がいをもつご本人が安心して幸せな人生を送れるよう」、「家族が安心して将来を託せるよう」、という理念の実現を目指して活動を始めたにも関わらず、年齢の所為とは言いながら会議にすら歩いて出席できない体調では、仲間に迷惑をかけるだけのことであり会の運

営に貢献するどころではない、と思っておりますので、此処で代表理事の席を辞し、今後は体調の回復に専念し何時かまた皆さんと一緒に知的障がい者福祉に貢献する日があることを念じております。

NPO成年後見湘南の将来については、優秀なスタッフ、顧問、会員、友人の存在とご活躍により、益々発展されることと信じております。皆様のご健闘を心からお祈りいたします

前代表理事 比企 明義



設立10周年を迎えました！

私たちNPO成年後見湘南は、今から10年前の平成15年4月22日に16名の出席を得て設立総会が開催されています。

そうです、つばめ通信第11号の発行月が設立10周年に当たります。そこで、5月28日の総会後に設立メンバーの方たちにもご参加いただき、ささやかながら設立10周年記念パーティーを行うことにしています。

設立総会にたどり着くまでには、設立総会の日から約1年半前の平成13年11月27日から18回にわたって成年後見制度に関する勉強会を重ねています。しかし、当初からNPO法人を創るという考えはなく、成年後見制度の理解を深めたいということでしたが、その過程でNPO法人の勉強をしたことから、知的障がい者を身内に持ち、長い付き合いがある自分たちがNPO法人を運営した方が、特に身内が望む身上監護の面で、より適切な支援が出来るのではないかと、思うようになり設立につながりました。

18回にわたって行われた勉強会は、現在の定例会議に引き継がれています。

現在、私たちの法人は先進的な活動をしているとして、多少なりとも世間から認めていただけるようになったのも、先見の明があった設立メンバーの方たちの努力、支えてくださった顧問の方たちのご支援の賜物と、改めて感謝いたします。

節目を迎えた今年の4月、私たちNPO法人の活動の仕方を改編をしました。組織の面では、後見事業部のスタッ

フも増やし、後見事業部と事務局にサブチーフを置くようにしました。会議の面では、定例会議を年8回から11回に、勉強会・検討会を年4回から10回に、更にスタッフが事務所に居て後見担当者の相談を受けたり、増加した事務処理を行ったりする日を新たに年11回設けました。

近年、後見の要請が増加していて、更に活動を広げていきたいと考えていますが、そのために後見業務を担当していただける方を増やしていかなければなりません。会員の皆様には、活動へのご協力をしていただければ幸いです。

平成24年度の活動を振り返ります。

障がい者関係の団体(栃木や三重からも)や行政(平塚)からのアクセス、講師派遣の依頼が確実に増えました。現在、これらの対応は特定のスタッフに限られており、対応できるスタッフを増やしていくことも課題の一つです。

このような人的補強が必要な中で、法人理事の社会福祉士仲間である谷由美子氏が、また東京大学主催「市民後見人養成講座」に参加し、昨年4月に私たち法人と進和学園で実習された方々の内、白石ひとみ氏が、それぞれメンバーに加わっていただき活動していただいています。更に、同じく東京大学養成講座の受講生で、今年2月に実習された方々の内、菅原由紀子氏が今後メンバーに加わっていただくことになっています。お三方には、これからの活動に法人スタッフの皆さんから期待が寄せられています。(続く)

今年1月には、会員向けに当時県立中井やまゆり園 発達障害支援センターで仕事をされていた吉澤宏次氏を招いて、「言葉のない発達障害(自閉症)、知的障害児者へのかかわり方」と題した勉強会を開催しました。参加された皆さんが、障がい者役になって意思を伝える、それを受ける役を演じたり、ユニークな勉強会で楽しみながら過ごしました。

昨年度、後見人新規選任は2件、累計で17件になりました。しかし、昨年度は、この内1件が後見終了になり、現在稼働している後見は15件です。今後ともスタッフ全員で被後見人を支えていきます。

最後に残念なご報告をしなければなりません。10年前、このNPO成年後見湘南を立上げ、以来今日まで、この法人の代表理事として活躍され、皆の精神的支えでもあつ

た比企明義氏が、病氣療養のためその職を辞されることになりました。治療に専念していただき1日も早い回復を願っております。後任として理事会で私、成瀬富子が新代表理事に選出されました。常に設立趣旨書の理念に立ち戻り、「知的障がいをもつ方たちが、親亡き後も幸せに暮らせるよう」「家族が安心してわが子を託せるよう」、力不足ではありますが、法人スタッフと共に力を尽くして参りたいと存じます。前代表理事には心からの謝辞をささげ、病を克服されたこの法人に戻ってきてくださる日を待ちたいと思います。

会員の皆様には、これからも私ども法人の活動に変わらぬご支援とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

新代表理事 成瀬 富子

NPO成年後見湘南との出会い

昨年度より、NPO成年後見湘南の活動に参加させていただいています。

私には小学校の特別支援学級に在籍する知的障害のひとり息子がいます。

NPO成年後見湘南との出会いは、息子の今後のために役立てればと思い取得した社会福祉士の湘南西支部の定例会で、当時の支部長が成瀬さんを紹介して下さったことがきっかけとなります。社会福祉士という肩書きはあってもド素人。「成年後見」という言葉も受験勉強中に知ったほどです。

親の年齢がいくつであれ、障害のある子供を持つ親の心配はその子の将来、特に自分が亡くなった後の子供の事。障害児をもつ、まだまだ若い？私の仲間の間でも度々このような話題がでます。

「成年後見についてもっと勉強をしたい」と考えていた時に、私はNPO成年後見湘南と出会え、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

昨年度は定例会議に参加させていただきました。毎回、メンバーの皆さんに圧倒されています。よりよい活動にするためのいくつかの提案、ご本人の大切な財産を守るために徹底管理している会計さんのお仕事、後見活動をしているメンバーの悩みに答えるアドバイス、研修に参加する向上心。どの活動を見ても皆さんの熱い想いが伝わってきて「いつかここに子供をお願いできたら幸せだな」と感じます。

今年度から、私も後見担当者として活動します。村山さんとの二人での担当で大変心強いです。村山さんの足をひっぱらないことはもちろん、成年被後見人ご本人の快適な生活を送れるよう見守り、少しずつでも信頼関係が築けることができるよう努力していきたいと思っています。ご指導、よろしくお願いいたします。

この10年、私は多くの友人や関係機関の皆さんに支えられてなんとか子育てを頑張ってくることができました。今後はこれまでの恩返しのため誰かを支えられる立場になればと思います。

谷 由美子



☆事務所と連絡先の紹介:

- ご相談等何でもかまいません。
気軽にお寄りいただくか、ご連絡ください
(JR平塚駅南口から徒歩5分、駐車スペース無)
- ・所在地:平塚市代官町16-37
平塚チェリーマンション102号
 - ・TEL/FAX:0463-22-7621
 - ・専用携帯電話:080-9548-6093
 - ・メールアドレス:kokenshonan@yahoo.co.jp

編集後記:

- ◇ 平成23年11月に活動拠点としての事務所を構えて以降、順次専用のパソコン、プロジェクター、整理棚等の資産を揃えてくると共に、平成24年度は業務の整備、効率化を図ってきました。まだ途上であり、今後もこれらを続けていきます。
- ◇ 平成24年度は、会計業務の仕組みを一新し、法人内の請求手順や申請フォーマットを更新しました。その他、貸金

庫の扱いの変更、弔慰・見舞い時の規定化を行いました。

親亡き後、本人を支援していく上で、親族にも支援する側にも是非欲しいものが「引き継ぎ書」と云われる本人のことを記したものです。当法人独自の引き継ぎ書、これを「つばめノート」と称して、平成24年10月に発行しました。今後普及活動に取り組んでいく所存です。

(事務局)